

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時に理念の唱和を入居者様の前で行い、理念の共有を図っている。	理念は開設時にスタッフからの意見をまとめ、管理者が作成しました。理念が実践できるように具体的な年度目標を設定したり、毎朝の朝礼時にご利用者の前で理念を唱和しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年の夏頃より、地域の回覧板を苑にも回覧してもらい、それに伴いお茶の間の会への参加が増えている。	田端町のお茶の間にご利用者と一緒に参加したり、地域の敬老会や夏祭りに参加したり、ホームのちゃんこ鍋大会に地域の方も招待したり、中学生の体験学習も受け入れるなどして地域との交流を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のお茶の間の会でも、認知症の方の理解を深めてもらう為、民正委員さんが主体となって寸劇を行って頂き、その場に入居者様が参加した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際に、苑の防災訓練を見て頂き、ご意見、感想を頂き、次回の反省点としている。	運営推進会議は包括支援センター職員、民生委員、区長、老人会長などに出席していただき、利用状況、事故報告、活動状況の報告と事業所への意見を頂くなどサービスの向上に繋げるようにしています。	運営推進会議は年に6回開催できるように検討するとともに、ご家族にも参加していただけるように検討されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて苑での取り組み、実情を報告し、ご意見を頂いている。	市の担当者には運営推進会議にも参加していただいております、相談できる関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束についての勉強会を行い、理解を深めた上で、日々のケアに取り組んでいる。	身体拘束を行わない方針のもと玄関の施錠も夜間のみとしており、身体拘束に関する研修もホームで実施し、職員の理解を深めています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について勉強会を行い、理解を深めた上で、日々のケアに取り組んでいる。	虐待防止に関する研修もホームにて実施し、職員の理解を深め、日頃から意識をするようにしています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を必要とされる入居者様はおられないが、今後学ぶ必要があると考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書と重要事項説明書で詳細を説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様から頂いたご意見、ご要望を随時反映させている。 また、苦情に関しては運営推進会議で報告をしている	玄関に意見箱を設置しているほか、面会時のやりとりや電話連絡にてご家族の要望を確認しています。	ご家族とも定期的なやりとりができるようにご家族会の開催も検討されることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全職員参加のミーティングを実施している。管理者、職員の一対一での面談を年1回実施している。	日々の申し送り、毎月の職員会議や日頃の業務のなかで管理者に意見を言える関係が構築されています。また、職員に面談チェック表を記入してもらい、その内容を踏まえた管理者により個人面談も今後予定されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が全職員に自己研鑽を呼びかけている。職場環境、条件の整備にも力を入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の職員研修計画を立て、積極的に受講させている。また、それ以外でも、研修の希望があれば応じるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に各事業所の管理者が集まって意見を交流する場があり、参加するようにしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に、ご本人、ご家族様に意見を頂き、ご本人、ご家族共々安心して頂けるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前に、ご本人だけでなく、ご家族様にもご意見を求め、ご本人を共に支援して関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様には、今できる可能な支援をさせて頂くことを伝え、受診の対応については、他のサービスの利用を使えることも説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームでの共同生活であることを入居者に伝え、職員がそれを支えるのが役割であること指導をしている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用状況報告を毎月発送し、入居者とご家族様が電話でも話せるようにしている。	月に1回事業所の広報誌を送付しているほか、毎月ご利用者毎に担当者がお手紙を作成し、ご家族にホームでの生活の様子や食事、排泄などの状況をご理解いただいています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その方の馴染みのある場所や、人との関係が途切れないように努めている。	知人の方に面会に来ていただいたり、ご家族にも協力を頂き馴染みのスーパーへの買い物、自宅への外泊、なじみの美容室などに出かけることで、これまでの関係を継続できるように支援しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で仲の良い場面はあるが、どうしても孤立傾向になる方もおられるのが現状である。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調を崩され、入院となった時は、ご家族様との連絡や、ご本人へのお見舞い等、関わりを持ちながら支援を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の、生活歴、馴染みの暮らし方を把握し、その人らしく生活が続けられるように努めている。	日々のやりとりにてご利用者の要望を確認しているほか、ご家族の意向についても面会時や電話にて確認しています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様の生活歴を把握し今までの生活が継続できるようにする事で生活自体の意欲が向上できるように努めている。	ご利用者、ご家族からの契約時の聞き取りのほか、日々の暮らしの中で得られた情報も職員間で共有しています。	ご利用者のフェイスシートは契約時に作成するのみでなく、定期的に見直されることを期待します。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活状況を把握し、個人のスタイルを尊重しながら、生活リズムを整え、心身共に健やかな生活を送れるよう心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成は、計画担当の介護支援専門員が主体で、本人やご家族の意向を反映した計画となるよう努めている。	介護計画については日々の実践状況の確認及び毎月担当職員のよる評価を行い、年に1回定期的な見直しを行っているほか、ご利用者の状況変化時にも計画の見直しをしています。	サービス担当者会議にはご家族の参加をお願いし、計画の検討に参加されることを期待します。また、調査時点で介護計画の日付に記入ミスがある箇所もありましたので、早期に見直されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の状態や経過は、各々、個別記録に残して、職員間で常に情報の共有を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様がニーズを出せるような雰囲気作りと、ニーズを受け取れる対応力を養うように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の茶の間の会を苑で行ったり、地域の催しにも参加して頂くようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、苑の看護師の指導を仰ぎ、ご家族様へ連絡し、必要かどうかを判断した上、ご家族様に対応して頂き、受診している。	基本的にはご家族に受診支援はお願いしていますが、必要時には計画作成担当者のご利用者の状態をまとめた資料を作成し、医師に状態を報告しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	苑の看護師とは常に情報の共有を図り、指示を仰ぎながら、職員全体で入居者の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関と退院の日時等の連絡をしっかりと行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	苑の方針は看取りを今後行うべきと考えられているが、準備段階であり、今後、ターミナルケアについて職員全体で理解を深めていきたい。	ホームではご利用者・ご家族の要望に合わせ看取りまで支援していきたいと考えていますが、ホームとしての方針の作成はまだ行われていません。	ホームとしての重度化対応に関する方針を早期に作成し、ご家族や職員にも事業所の方針を説明できるように検討されることを期待します。
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時に備えたマニュアルを作成し、応急手当、初期対応の訓練を行っている。	法人内で消防署員に来ていただき応急手当の講習を実施したり、AEDの使用研修を行い、職員が適切な初期対応ができるようにされています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議でも苑の訓練の状況を見て頂き、ご意見を求め、災害時の協力をお願いしている。	日中の火災を想定した避難訓練や地域の防災訓練への参加はありましたが、地域の方の避難訓練への参加はなく、夜間を想定した避難訓練はまだ行われていませんでした。	災害時に適切な対応がとれるように、年に2回避難訓練の開催（夜間を想定した訓練も含む）と地域の方への参加要請を行われることを期待します。また、緊急連絡網も実態に合わせ見直されることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格、生活歴、職歴等、生きてこられた背景に目を向けるように取組み、職員間でも情報を共有している。	広報誌に写真やお名前を載せることも契約時に書面で同意を得ています。接遇に関する外部研修に参加したり、日々のご利用者への声かけについても気づいた時には管理者が都度指導しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が希望する事に応えていく事で、思いを伝えやすい雰囲気を作り、信頼関係が得られるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の中で、入浴に関しては、拒否があった場合は清拭で対応する等をして、その方のペースに合わせた介助を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪を依頼し苑内で行ったり、地域の美容室利用や、馴染みの床屋さんへお連れしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は、日常的に利用者と一緒にやっている、メニューは職員が作成してるが、今後、週に一度は利用者に作成して頂きたいと考えている。	野菜の皮むきや食器洗い、ホームの畑での野菜の収穫などご利用者にもできる作業を手伝ってもらっています。また、ご利用者に食事を楽しんでもらうため回転寿司に出かけたり、ご利用者と一緒におやつ作りを行うこともありました。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記録に残し、栄養状態を把握し、一人一人の嗜好や禁止食材を情報として職員間で共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施は習慣化し、定着している、うがいは殺菌効果のあるお茶で実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表から状況を観察して、一人一人のペースに合わせた声かけ、介助を行っている。	全員を対象に排尿、排便のチェックをして、ご利用者の排泄パターンを把握しており、ご利用者に合わせた支援を行なっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表で個々に把握を行い、食事、水分摂取量に留意しながら対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前・午後に加え、今年より夕方入浴も始めている。今後、夕食後の入浴も取り入れる方針。	週に2回入浴支援を基本としており、夕方の時間帯でも入浴支援を行うなどご利用者の希望に応じた入浴支援がされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中その方に合わせた配慮と、夕食前の入浴を通して安眠へつなげる試みを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	与薬の管理は苑の看護師が主体で行い、看護師からの申し送りを職員間で共有している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や、職歴等を把握し、苑での生活を見ながら、得意としている事をを提供するよう、心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望がある場合、すぐに対応できない日もあるが、そえる様に努めている。	近くのスーパーへの買い物、ご利用者の実家への外出、外食支援などご利用者の要望に応じた支援に努めています。また、季節に合わせたお花見やご家族が参加する駅伝大会の応援などへも出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で使用できる金銭は苑で管理しているが買い物等で個人が必要な買い物ができる仕組みは整えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様と電話でお話しされたり、年賀状の返信等も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご本人の馴染みの環境に合わせたものとし、共有スペースは広々と開放的に整えられた環境を提供している。	共用スペースは天井が高く採光が充分に取り入れるつくりになっています。ソファやこたつも置かれ、家庭的な雰囲気がありました。ご利用者が作った作品も掲示され、季節感を出す工夫もされていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーは食事スペース、リビング、畳の間があり、用途に合わせて入居者がどこで過すかを自己決定している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご家族様の協力を得て、馴染みのある物や家具等を準備して頂き、その方に合わせた環境を提供している。	昔から使用していたタンスや化粧台を持ち込んでいたり、ご家族の写真も飾るなどして、自分に合った居室にされていました。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人が生活習慣で管理したいと希望するものは自己管理して頂くようにし、自立できることを主体に考えた支援を行っている。		